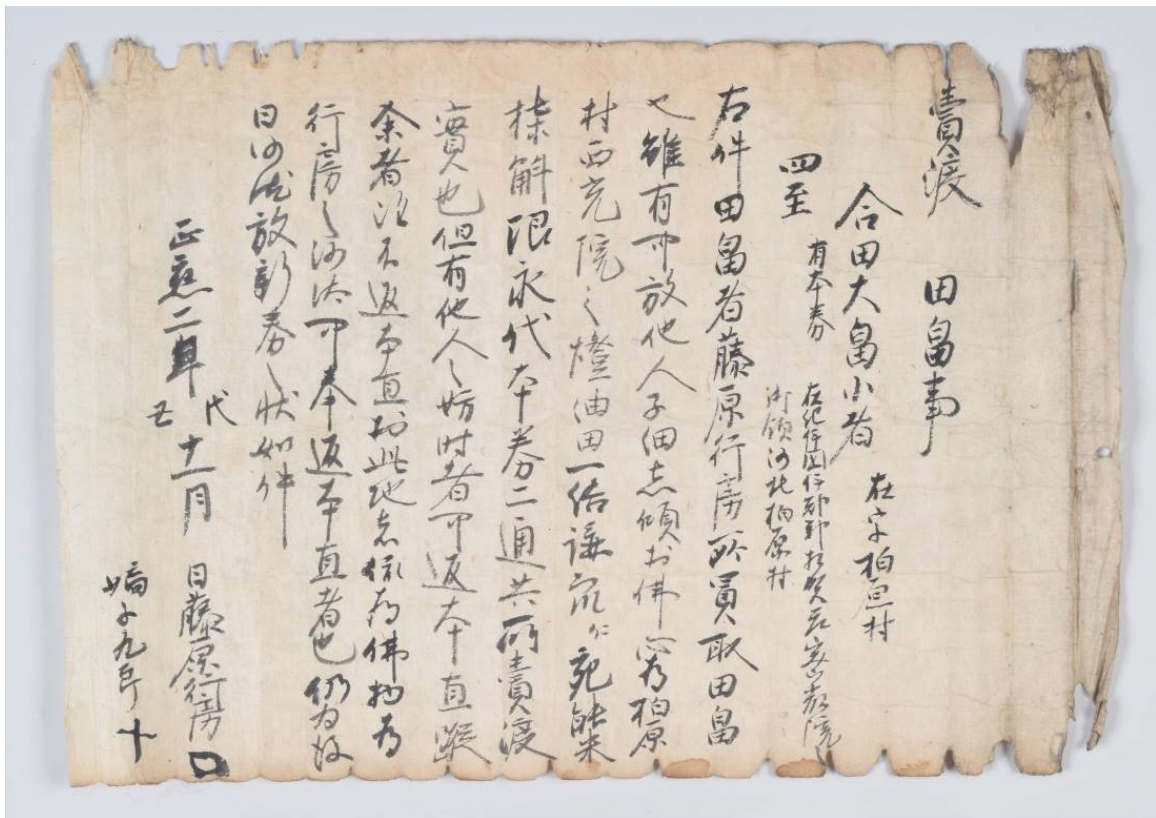


## かせばらもんじよ 柏原文書について

- 橋本市<sup>かせばら</sup>柏原区の所有する数千点に及ぶ古文書群のうち、寛元2年（1244）～慶長2年（1597）の中世文書140点。現在は、近代製の「黒箱」に納められている。
- 本文書は、柏原村（現・柏原区）の精神的・宗教的な中心であった西光寺に、村民や地域の有力者から田畠の寄進・売却がなされ、柏原村が13世紀後半から15世紀前半にかけて、独自の経済基盤として<sup>そうゆうち</sup>惣有地を形成していった経緯を示している。
- こうした惣有地<sup>そうゆうち</sup>という経済基盤をもとに自律的・自治的に運営された惣村<sup>そうそん</sup>は、近畿では鎌倉時代後半から南北朝時代にかけて、全国的には室町時代までに形成が進んだ。
- 柏原村は、その全国的にも早い時期の例として、また惣有地<sup>そうゆうち</sup>のあり方を具体的に示すものとして、これまで荘園研究・惣村研究で広く取り上げられてきた。
- このように、本文書は、紀伊を代表する惣村である中世柏原村の経済基盤の確立とその変遷を示す点で学術上の価値が高い。



黒箱と柏原文書



柏原文書 第5号文書「藤原行房田畠売券」(正應2年 [1289] 戊丑11月日)

- ・ 柏原村西光寺 (文中は「柏原村西光院」の「一結講衆」宛て) への土地の寄進を示す最も古い文書
- ・ 「仏物」として寄進したことが記される

## 柏原区 地図

